

令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立有馬小学校

学校の教育目標

自ら学ぶ子・思いやりのある子・心とからだの健康な子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ①基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」・「学びに向かう力、人間性等」をバランス良く育成し、学力の定着を目指す。
 - ・算数習熟度別少人数指導の充実
 - ・カリキュラムマネジメントの視点に立った教育課程の見直し
 - ・個に応じた指導の充実
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
 - ・学び合いのある授業づくり
 - ・言語活動の充実
- ③ICT機器を活用した指導の充実を図る。

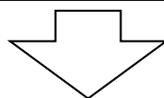
令和6年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は3.1ポイント、5年は10.2ポイント、6年は13.5ポイント上回っている。6年は、区の平均値を4.6ポイント上回っており、すべての観点で区の平均値を上回っている。また、主体的に学習に取り組む態度は、4年・5年・6年ともに、全国平均を10ポイント以上上回っており、6年は20ポイント以上と極めて高い。</p> <p>▲全国の正答率を上回っているものの、4年はすべての観点で、5年は主体的に学習に取り組む態度以外の観点で区の平均点を下回っている。</p> <p>▲4年・5年ともに配当学年の漢字を正しく書く力が十分に身に付いていない。</p>	<p>○朝の読書タイムや学校図書館の計画的な利用により、読書に親しむ習慣が身に付いており、国語への関心・意欲が高い。</p> <p>▲定着するまでの繰り返しの練習時間が十分に確保できていない。また、学習した漢字を日常生活で使用できていない。</p>
算数	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は6.7ポイント、5年は10.1ポイント、6年は14.3ポイント上回っている。6年は、区の平均値を2.7ポイント上回っており、すべての観点で区の平均値を上回っている。</p> <p>▲全国の正答率は上回っているものの、4年は「数と計算」領域での四則計算のミスや「円と球・三角形」の図形領域での作図問題が若干低い。5年は「いろいろな形」の図形領域での作図や「折れ線グラフと表」の変化と関係の領域が若干低い。6年は「小数の計算」での文章問題の立式や「円グラフや棒グラフ・平均」でのデータの活</p>	<p>○習熟度別少人数指導や放課後の「ステップアップ教室」での補充学習の徹底により、基礎的な学力が身に付き、個に応じた指導の効果が表れている。</p> <p>▲4年は、大きい数、小数、分数、かけ算、わり算と該当学年で新しく学んだ計算問題が十分に定着していない。また、コンパスを用いた円の作図が十</p>

	用領域が若干低い。	分に定着していない。5年は、図形領域での分度器や三角定規を用いた作図が十分に定着していない。また、1目盛りの大きさが異なるグラフの違いを読み取る問題が十分に定着できていない。6年は、文章問題を読み、正しく立式することが十分に定着していない。
社 会	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は3.0ポイント、5年は、7.4ポイント、6年は9.4ポイント上回っている。6年は区の平均値も1.6ポイント上回っており、すべての観点で区の平均値を上回っている。</p> <p>▲4年は「市の様子」での四方位、地図の読み取りや地図記号の理解が全国の正答率を下回っている。</p> <p>▲5年は「緑のダムの仕組み」「清掃工場の仕組み」「水害への備え」についての理解が不十分である。</p> <p>▲5、6年は、資料を適切に読み取り、資料から考えたり、調べたことを既存の知識と比較、関連付けて思考したりすることに課題がある。</p>	<p>○調べ学習や單元ごとにまとめの活動を行ったことで主体的に学習する姿勢につながり、習得した知識を生かして、学びを深めることができた。</p> <p>▲四方位や地図記号の理解等、4月当初に学習したことが十分に定着していない。</p> <p>▲仕組みについての知識・理解が十分に定着していない。</p> <p>▲資料の読み取り方や調べたことをまとめる具体的な指導法を改善する必要がある。</p>
理 科	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を4年は7.3ポイント、5年は10.4ポイント、6年は10.0ポイント上回っている。区の平均値も4年は、0.6ポイント、5年は3.7ポイント、6年は6.1ポイント上回っている。また、4年・5年・6年ともに、すべての観点で区の平均値を上回っている。</p> <p>▲4年の「植物の育ち方」や5年の「1年間の動物のようす」6年の「植物の花のつくりと実」では、全国正答率を下回っている。</p>	<p>○理科室が整備され、観察や実験が計画的に行われてきたため、興味・関心をもち、主体的に学習に取り組んできた成果が見られる。</p> <p>▲植物や動物について、1年間継続して観察することが環境的に厳しいことが原因として考えられる。</p>
英 語	<p>○「令和6年度学習力サポートテスト」では、正答率は全国の平均を11.5ポイント、区平均値を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○英語に関心をもち、楽しみながら意欲的に学習に取り組むことができています。</p> <p>▲アルファベットの書きに若干課題がある。</p>	<p>○英語専科がALTと打ち合わせを行い、連携を図りながら、計画的に授業を進めることができています。</p> <p>▲アルファベットの大文字</p>

		と小文字を書く時間を十分に確保できていない。
体 育	<p>○「令和6年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」では、全学年、男女ともに「反復横とび」で、全国の平均を上回っている。</p> <p>○「上体起こし」「立ち幅跳び」「20mシャトルラン」では、ほぼ全ての学年、男女で全国の平均を上回っている。</p> <p>▲全学年、男女ともに「握力」で全国の平均を下回っている。</p> <p>▲1・4・5・6年の男子、1・5・6年の女子の「長座体前屈」では、全国の平均を下回っている。</p> <p>▲1・2年の男女はともに「50m走」では、全国の平均を下回っている。</p>	<p>○マイスクールスポーツで、縄跳びに取り組んでいる成果が表れている。</p> <p>○職員研修を行い、東京アルファを活用した体力テストの行い方について共通認識を図り、全校で練習に取り組めるようにした。</p> <p>▲日常的に「握力」や「長座体前屈」につながる運動を日常的に取り入れていく。</p>
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<p>○「令和7年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を1ポイント上回るようにする。</p> <p>○漢字を正しく書くことについて、すべての実施学年で全国の平均を上回るようにする。</p>
	算数	<p>○「令和7年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を1ポイント上回るようにする。</p> <p>○図形領域について、すべての実施学年で全国の平均を上回るようにする。</p>
	社会	<p>○「令和7年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を1ポイント上回るようにする。</p> <p>○資料活用能力を図る問題について、全ての実施学年で、全国の平均を上回るようにする。</p>
	理科	<p>○「令和7年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を3ポイント上回るようにする。</p> <p>○植物の育ち方や動物の様子に関する問題について、全ての実施学年で全国の平均を上回るようにする。</p>
	英語	<p>○「令和7年度学習力サポートテスト」は、6年のみ実施のため、区平均点を3ポイント上回るようにする。</p> <p>○「アルファベットの書き」の問題について、全国の平均を上回るようにする。</p>
	体育	<p>○令和7年度体力調査のすべての実施学年で、体力調査で各項目平均0.5ポイント上昇を目指す。</p>
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の「見方・考え方」を全教師が理解(100%)し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行う。また、指導計画に基づき、すべての単元(100%)で意図的に「学び合い」の場、自分の考えをより深く考察する場を設定する。 カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科の学びを横断的に関連付け、教育課程を見直す。 児童の主体的な学習態度を育てるために、全学年においてタブレッ

	<p>ト端末を一日1時間以上使用し、個別学習、グループ学習、一斉学習で個の学びが深まる授業展開の工夫を行い、より効果的な活用方法を校内で検討し、授業改善につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有馬スタンダードを徹底し、落ち着いた環境下で、各教科の基礎・基本をしっかり身に付けることができるようにする。
③ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開、保護者会、個人面談、学校便り、ホームページ、Google Classroom、tetoru等を活用し、積極的に情報を発信したり、家庭と十分に連絡を取り合ったりして、教育活動の理解を図る。 ・児童・保護者による学校評価アンケートを実施し、教育活動の改善を図るとともに、学校からの家庭への情報発信への肯定度を85%にする。
④ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツとして、全児童が休み時間や朝の時間に一定期間、縄跳びや持久走などの共通した取組を行い、特色ある教育の推進を図ると共に、体力の向上や運動することへの意識の高まりにつなげる。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話の聞き方や発表の仕方の約束（学習の7つの約束）の徹底を図る。 ・朝読書の時間や図書の間では、図書館指導員と連携を図り、様々なジャンルの本に親しませ、読書の幅を広げるようにする。 ・学習で出てきた文章を丁寧に読み取る機会を作り、文章の内容を正しく読み取ることができるようにする。また、問われていることに対して、どのように答えるべきか、演習を重ねる。 ・漢字ドリルやミニテスト等を行い、反復練習を行うことで、へんやつくりなどを正しく覚えられるようにする。また、文章を書く際には、これまでに学習した漢字を正しく使うように指導するとともに、辞書を手元に置き、分からない言葉や漢字は自分で調べる習慣をつけさせる。 ・ドリルソフトを活用し、漢字の反復練習で習熟を図ったり、文章を書く場面でタブレット端末を有効活用したりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に入る前に、レディネステストを行い、既習事項の定着を把握し、習熟度別少人数クラスに分けて指導を行う。 ・演算決定の際、図や数直線を活用する場面を設定し、数直線の見方やとらえ方についても指導する。 ・ICT 機器を効果的に活用し、自分の思考や友達の意見を取り入れたノートの書き方を指導する。 ・東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して児童の課題を明確にし、算数ステップアップ教室で補習することで既習した学習の習熟を図る。 ・タブレット端末のドリルソフトを活用して習熟を図ったり、図形領域等で効果的に活用したりして理解を深める。 ・授業のはじめに、既習事項の振り返りの時間や3分間計算練習の時間を確保し、基礎・基本の定着を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・導入では、社会的事象から課題をつかみ学習問題を立て、その解決のために教科書や資料集の資料を活用し、一つの資料から、さまざまな情報を読み取る活動をし、そこから考えられることを話し合う学習展開を取り入れる。 ・実際に見学をしたり、タブレット端末を効果的に活用したりして、意欲的に

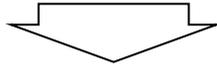
	<p>調べ学習ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの情報を取捨選択し、整理してまとめる活動を通して、学習内容を自分の言葉で説明や表現ができるようにする。 タブレット端末を効果的に活用し、学習のまとめを行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対して、予想や実験方法を考える場面を丁寧に扱い、一人一人が実験器具を操作できる場を意図的に設定する。 既習の実験・観察の過程や結果を根拠として、予想を立てたり、実験・観察の過程や結果から考察したことを記述したりするなど、思考を深めるノートの書き方を指導する。 隣接している公園や屋上の理科園を効果的に活用し、植物や生き物の観察等自然事象と体験的に触れ合う機会をとるようにする。その際、タブレット端末を活用し、植物の観察等を継続的に行い、一年間の様子が分かるようにしていく。
英語	<ul style="list-style-type: none"> A L Tとのコミュニケーションを取り入れた授業を展開することで、それぞれの場面の受け答えについてより深く理解するようにしていく。 学習したことを生かす場として、A L Tと児童の1対1のアセスメントテストを実施する。 提示する絵カードに文字を入れ、文字に親しむことができるように工夫する。その際、繰り返し、声に出して発音する場面を設け、単語を正しく発音できるようにする。 アルファベットを正しく書く時間を定期的に取り入れ、大文字と小文字の違いの定着を図る。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の体力調査の結果を分析したものを学年で共通理解し、意図的・計画的に苦手な分野を強化する運動を取り入れる。(特に、握力や長座体前屈につながる運動) 児童が東京アルファを活用して個々の課題に向き合い、明確な目標を立てて運動に取り組むことができるようにする。 体育授業の準備運動の中で、継続して握力の運動に取り組んだり、学校行事と連携させ、目標を明確にした長縄跳び、短縄跳びや持久走に取り組んだりすることで、基礎体力向上を図る。
②授業改善	
取組Ⅰ	<p>主体的・対話的で深い学びを通しての授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等の授業の中で言語活動を充実させるとともに、「学び合い」の時間を位置付け、発表、対話、話し合い等を意図的・計画的に発達段階に応じて取り入れる。 人権教育を柱として、カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科の学びを横断的に関連付け、教育課程を見直す。
取組Ⅱ	<p>基礎的・基本的な学力の定着の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科では、1・2・3年生は、2学級ずつ3展開、4・5年生は担任と少人数指導教員、区講師2名により、3学級の学年は6展開、4学級の学年は7展開、6年生は担任と少人数指導教員、区講師2名により、2学級ずつ4展開とし、全学年習熟度別少人数指導を行う。 タブレット端末等のICT機器を効果的に活用して児童の主体的な学習を促し、個に応じた指導につなげていく。ドリルソフトを活用して学習の定着を図る。
取組Ⅲ	<p>教員相互での学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> OJTグループを作り、定期的に授業を見合い、アドバイスをし合ってよりよい授業改善を目指す。 定期的にOJT研修を実施し、教員相互で研鑽を深める。

③家庭との連携

取組Ⅰ	家庭への情報発信 ・学校便りや学年便り、個人面談、保護者会等を活用し、積極的に情報発信をホームページや Google Classroom、teturu を活用して行う。 ・保護者会等で、目指す児童像を示すとともに、学習の定着に向けた家庭学習への取組についての理解を求める。
取組Ⅱ	学校アンケートの実施 ・学校公開時のアンケートによる授業評価、児童・保護者による学校評価アンケートを実施する。 ・保護者からの要望・改善点等を早期解決し、信頼関係を構築する。

④体力向上

取組Ⅰ	マイスクールスポーツの推進 ・校内持久走大会（ARIMA RUN）に向けて、体育の授業及び休み時間に時間走を全校で取り組む。 ・縄跳びカードを全校共通で年間を通して取り組む。
取組Ⅱ	体育授業の充実と継続的な体力アップを目指した取組 ・体力調査の結果を基に、体力向上に関する運動例から各学級の実態に合わせて授業で継続的に取り組む。 ・休み時間に多様な運動に取り組むことができるように環境を整備する。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話の聞き方や発表の仕方の約束（学習の7つの約束）を徹底したことで、児童の意識が高まった。 ・朝の時間を活用した読書活動の推進や単元計画に基づいた学校図書館の利活用により、意図的に様々な種類の本に触れ、読書の幅を広げることができた。 ・学習で出てきた文章を丁寧に読み取る機会を設けたことで、文章の内容を正しく読み取ることを意識する児童が増えた。 ・漢字ドリルやミニテスト等を行い、反復練習を行うことで、漢字の定着を図ることができた。 ・ICT機器を活用し、自分の考えを可視化したり、友だちと交流したりすることができた。また、書く学習では、Wordの機能を使い、加除修正や友達の意見を取り入れた文書作成を効果的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の聞き方や発表の仕方は、継続した指導が必要である。 ・読書の幅を意図的に広げることはできたが、日常の読書活動にまで生かされていない児童もいる。児童が主体的に様々な本を手にとったり、長文を最後まで読み続けたりできるように、読書活動の充実を図る。 ・漢字の基礎・基本は定着しているものの、文章を書く際に、既習した漢字を日常的に使うことができていない児童がいる。辞書を手元に置き、分からない言葉や漢字は自分で調べる習慣をより一層意識させていく。 ・ICT機器を効果的に活用することができたが、習得した漢字を覚えるためには、実際に書くことが有効である。目的に応じて、ICT機器を活用できるように教材研究を十分に行う必要がある。
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に入る前に、レディネステストを行い、既習事項の定着を把握し、習熟度別少人数クラスに分けて指導を行ったため、理解度に応じた指導をすることができた。 ・ICT機器を効果的に活用し、学び合いの時間を設けたことで、自分の思考や友達の意見を取り入れたノートの書き方を指導することができた。 ・東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して児童の課題を明確にし、算数ステップアップ教室で補習することにより、既習事項の習熟を図ることができた。 ・図形の学習等で、ICT機器を効果的に活用することで、児童の思考を深めることができた。 ・授業のはじめに3分間計算練習を行うことで、学習に集中する切り替えになり、計算力も向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数クラスのメンバーが固定されつつあるので、単元によっては、クラス編成の仕方を柔軟にし、学び合いを充実した指導をする必要がある。 ・演算決定の際、図や数直線を活用する場面を設定し、数直線の見方やとらえ方について、より一層丁寧に指導していく必要がある。どのようにして数直線で表すかについて考えを深める時間を設けていく。 ・学年が上がるにつれて、基礎基本の定着の差が大きい。定着度に応じて、児童への個別の声かけや補習教室等で支援をしていく。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・導入では、ICT機器を有効活用して、資料を拡大したり比較した 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習でタブレット端末を活用する際には、適切な情報を教

		<p>りして教材提示を工夫することで、社会的事象から課題をつかみ、児童の関心を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの情報を取捨選択し、整理してまとめる活動を通して、学習内容を自分の言葉で説明や表現する力が身に付いた。 ・一つの資料から、さまざまな情報を読み取ったり友達と話し合ったりすることで、多面的・多角的に情報を捉えることができた。 ・実際に見学をしたり、タブレット端末を効果的に活用したりすることで、意欲的に調べ学習ができた。 	<p>師が取捨選択して児童に提示する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめでは、学習内容と自分の生活への関連を考えることができるように、学習内容が今の自分の生活や社会にどのようなつながっているのかを問うことが必要である。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題作りや学習問題に対する予想を考えさせる場面を丁寧に指導したことで、理科の問題解決学習の流れにそって児童が主体的に学習に取り組むことができた。 ・実物を観察したり、理科支援員との連携で一人一人が実験器具を操作できる場を設定したことにより、体験的な活動を通して興味・関心を高め、知識の定着を図ることができた。 ・考察を考える際に、書き方の定型文を提示し、思考を深めることができた。考察したことを記述したり、学習した内容をまとめたりするなど、思考を深めるノートの書き方を指導することができた。 ・植物や生き物の観察等、周辺の環境的に観察が難しいものはタブレット端末を活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や地層など自然に関わる内容に関しては、タブレット端末では内容を学習する上で限界があるため、児童がより理解を深めることができるような実験や観察方法の検討が必要である。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのコミュニケーションを取り入れた授業を展開することで、それぞれの場面の受け答えについてより深く理解することができた。 ・提示する絵カードに文字を入れ、文字に慣れることができるように工夫することができた。また、繰り返し、声に出して発音する場面を設け、単語を正しく発音できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かす場として、ALTと児童の1対1のアセスメントテストをより一層実施する必要がある。 ・アルファベットを正しく書く時間を定期的に取り入れ、大文字と小文字の違いの定着を図っていく。
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の体力テストの記録を活用し、個々の課題に向き合い、明確な目標を立てて運動に取り組むことができるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・握力や長座体前屈については、体育の授業のみの指導は難しいため、休み時間を活用したり、各家庭で取り組んでもらったり

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の準備運動の中で、柔軟運動を取り入れる等、継続的に児童が取り組めるようにした。 ・ 目標を立てて長縄跳び、短縄跳びや持久走に取り組み、基礎体力の向上を図ることができた。 	<p>するなど、児童がより日常的に課題の運動に取り組むことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縄跳びと持久走はマイスクールスポーツのため、年間を通して継続して取り組むようにする。
<p>② 授業改善</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の授業の中で「学び合い」の時間を設定し、友達に意見を伝えたり、友達の意見を聞いたり、対話を通して学びを深めていくことができた。 ・ 人権教育を柱として、カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科の学びを横断的に関連付け、教育課程を見直すことができた。 ・ 習熟度別少人数指導により、算数の基礎学力が定着した。 ・ タブレット端末等の ICT 機器を効果的に活用し、個別学習、グループ学習、一斉学習で個の学びが深まる授業展開の工夫を行い、授業改善につなげることができた。 ・ OJT 講座や OJT グループによる教員相互の学び合いを通して、自己研鑽に励むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの目的を意識し、自分の意見を伝え合うだけで活動が終わらないように、対話や話し合いを深めるための手立てを明らかにしていく必要がある。 ・ タブレット端末を活用した学習では、個人差が見られた。各自の課題や進度に合わせて学習を行える点は、ICT のメリットではあるが、学力の定着に課題のある児童にとっては学習の定着につながる活用をしていく必要がある。 ・ 各教員の専門や経験を生かした講義や実技研修などをさらに行っていく。
<p>③ 家庭との連携</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開、保護者会、個人面談、学校便り、ホームページ、Google Classroom、tetoru 等を活用し、積極的に情報を発信したり、家庭と十分に連絡を取り合ったりして、教育活動の理解を図ることができた。 ・ 個人面談では、各教科の到達度や課題について各家庭へ伝えることができた。 ・ 欠席児童に対して、電話連絡に加え、Google classroom を活用して連絡をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校児童や配慮の必要な児童に対しては、引き続き個別でのコミュニケーションや保護者、必要に応じて外部機関との適切な連携を図っていく。 ・ tetoru や Google classroom 等、便利なツールを有効活用することも大切であるが、保護者と直接話すことにより、信頼関係を結び、家庭との連携を図ることも大切にしていく。
<p>⑤ 体力向上</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内持久走大会 (ARIMA RUN) に向けて、体育の授業や休み時間に時間走を全校で取り組むことができた。休み時間や放課後等に自主的に練習に励む児童もいた。 ・ 長縄大会に向けて、クラスの目標を設定することで積極的に練習に励む児童が増えた。 ・ 休み時間にボール運動を加えることにより、ボールを投げる機会が増え、体力の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短縄にも児童が進んで取り組むように、年間を通して充実させていく。時間と場所を確保したり、技の紹介をしたりするなど日常的に取り組めるように工夫する。